

本稿では、中国西南官話湘西小片に焦点を当て、その言語が属格主語を許容するかどうか明らかにする。調査の結果、中国西南官話湘西小片において、属格主語が出現することが明らかになった。より具体的には、(i) 単純関係節において、属格主語が出現する、(ii) 関係節内部における埋め込み文においては、属格主語が出現しない、(iii) 単純関係節において、属格主語は目的語と共起しない、(iv) 日本語における「まで節」のような付加節においては、属格主語は出現しない。また、(v) 西南官話は、現代中国語普通話と比較すると、その属格主語の出現状況はるかに日本語における属格主語の出現状況と類似している。さらに、(vi) 中国西南官話湘西小片の属格の分布を調査すると、日本語における「イワンの馬鹿」に見られる同格表現が可能であることが明らかになった。この同格表現は、この言語と日本語・ビジ語以外に可能ではない。この事実と、中国西南官話湘西小片と日本語において属格主語が出現するという事実は、西南官話湘西小片・ビジ語と日本語の母語話者間の生物学的類似性に関する問いを提起する。

1. はじめに

Harada (1971)以来、何語において属格主語が出現可能であるかを明確にすること、また、人間言語全般における属格主語認可条件を解明することは、記述的にも理論的にも、言語学において中心的探究トピックの一つであった。これまでの調査で、モンゴル語などのアルタイ諸語において属格主語が出現することは明確になってきた。その一方で、Maki et al. (2015)によれば、中国語普通話においては、属格主語が可能であるかどうかは、母語話者間で異なっている。本稿では、中国語にある大きく分けて7つある方言のうち、北方語（官話方言）の中の西南官話の湘西小片に焦点を当て、属格主語が認可されるかどうかを調査する。西南官話は、四川省、雲南省、貴州省、湖北省等で話されている。本調査のデータは全て、西南官話とビジ語のバイリンガル話者である本稿著者の一人によるものである。同者は、重慶市東南部の少数民族自治地域出身である。中国語は、SVO 言語である一方、ビジ語は、SOV 言語で、西南官話の話者の中には、ビジ語等の影響を受けた結果であるのか、SOV 語順を一部用いて話す話者もいる。西南官話、西南官話湘西小片、ビジ語が話されているおおよその地域は、図1に示される。

図1 西南官話、西南官話湘西小片、ビジ語が話されている地域



無料白地図（中華人民共和国）：三角 (<http://www.freemap.jp/item/asia/china.html>)

本稿の構成は、以下の通りである。2 節で、本調査の背景として、人間言語の属格主語の分布をモンゴル語とビジ語を例に取り提示する。3 節で、中国西南官話湘西小片において、属格主語が許容されるか調査する。4 節で、3 節における発見が何を意味するか考察する。5 節で本稿の結論を提示する。

2. 背景

以下での議論のために、モンゴル語とビジ語の基本文を使用し、人間言語の属格主語の分布を提示する。属格主語認可条件の考察は、以下の研究者の成果を参照せよ (Harada (1971), Harada (2002), Hiraiwa (2001), Kobayashi (2003), Maki, Bao and Hasebe (2015), Maki et al. (2016), Miyagawa (1993, 2011, 2012, 2013), Ochi (2001, 2009), Watanabe (1996))。第一に、(1)と(2)で示されるように、モンゴル語は、日本語同様 SOV 言語で、また、所有者には、属格マーカーの *-u* が付加される。ただし、日本語と異なり、モンゴル語の主格には音声がなく、*-ø* で示されている。以下、Nom = 主格、Acc = 対格、Gen = 属格、Con = 終止形、Adn = 連体形を示す。

- (1) Öcügödür Ulayan-ø tere nom-i qudaldun-ab-čai. (2) Ulayan-u nom
 昨日 ウラーン-Nom その 本-Acc 買った.Con ウラーン-Gen 本
 ‘昨日ウラーンがその本を買った。’ ‘ウラーンの本’

(3)と(4)で示されるように、モンゴル語では、単文には属格主語が現れないが、関係節内においては現れる。

- (3) Öcügödür Ulayan-ø/*-u iniye-jei.
 昨日 ウラーン-Nom/*-Gen 笑った.Con
 ‘昨日ウラーンが/*の笑った。’
- (4) Öcügödür Ulayan-ø/-u t qudaldun-abu-γsan/*-ab-čai nom-bol tere nom.
 昨日 ウラーン-Nom/-Gen 買い取った.Adn/*-た.Con 本-Top その 本
 ‘昨日ウラーンが買った本は、その本です。’

さらに、(5)と(6)で示されるように、モンゴル語においては、長距離属格主語認可によって、関係節内の埋め込み文の主語が属格として出現できる。

- (5) Bayatur-ø [öcügödür Ulayan-ø/*-u tere nom-i qudaldun-abu-γsan/-ab-čai
 バートル-Nom [昨日 ウラーン-Nom/*-Gen その 本-Acc 買い取った.Adn/-取った.Con
 gejü] bodu-jai.
 と] 思った.Adn
 ‘バートルが、昨日ウラーンがその本買ったと思った。’
- (6) Bayatur-ø [öcügödür Ulayan-ø/-u t₁ qudaldun-abu-γsan/*-ab-čai gejü]
 バートル-Nom [昨日 ウラーン-Nom/-Gen 買い取った.Adn/*-取った.Con と]
 bodu-γsan nom₁-bol tere nom.
 思った.Adn 本-Top その 本
 バートルが、昨日ウラーンが/の買ったと思った本は、その本です。’

(5)は、埋め込み文における主語は、属格を持たないことを示している。一方、(6)においては、その埋め込み文が、関係節内にあり、その場合は、属格主語が可能となる。注意すべき点は、日本語においては、(6)の文において、埋め込み文の主語が属格主語として現れることができないということである。本稿では、Maki et al. (2016)で提案された属格主語認可条件 (7)を暫定的に仮定することにする。

(7) 属格主語認可条件

- a. 属格主語は、名詞性を持つ素性に *c-command* されなければならない。かつ、
- b. 属格主語は、述語の連体形と局所的な関係にななければならない。

(Maki et al. (2016, pp. 6–7) 著者による修正)

第二に、ビジ語は、チベット・ビルマ語派の言語で、中国の湖南省、湖北省、重慶市などで話されている。ビジ語は、モンゴル語と異なり、統語的に分裂活格性を示す言語である。(8)は、自動詞の例、(9)は、他動詞の例である。以下、Sta は定格マーカーを、Act は活格マーカーを示す。以下、ビジ語と西南官話の例には、より理解しやすいように、まず、IPA で音声を示し、その音声に最も近いであろうローマ字を次に示す。

- (8) p^huxni ŋa sɔg. (9) p^huxni ŋos/ŋa-gos gi ts^hexpu p^həwg.
 B'ukn'i ŋa sewg. B'ukn'i ŋ'os/ŋa-gos gi c'ekpu p'uwg.
 昨日 私.Sta 喜んだ 昨日 私.Act/私-Act その 本.Sta 買った

‘昨日私が喜んだ。’

‘昨日私とその本を買った。’

また、(10)で示されるように、ビジ語の所有者には、属格マーカーの-ge が付加される。しかしながら、(11)と(12)で示されるように、ビジ語においては、属格主語が認可されない。以下、Nml = 名詞化詞、Prf = 完了、Atp = 抗受動態、Top = 話題を示す。

- (10) teəfi-ge ts^hexpu
 Kyâši-ge c'ekpu
 ジュシ-Gen 本
 ‘ジュシの本’
- (11) * [p^huxni ɲɛ/ŋa-ge səg-ɛ] hodzu-ni kondus ʃdzɛpa hodzu zin.
 * [B'ukn'i n'ɛ/ña-ge sewg-ś] xoju-ni kumdus ʃgyatpa xoju zin.
 [昨日 私.Gen/私-Gen 喜んだ-Nml] 時間-Top 午前 第 8 時 だ
 ‘昨日私の喜んだ時間は、午前 8 時だ。’
- (12) * [p^huxni teəfi-ge zə-p^hu-dʒi-ɛ] ts^hexpu-ni elidi ts^hexpu re.
 * [B'ukn'i Kyâši-ge žû-p'u-dri-ś] c'ekpu-ni aldi c'ekpu ras.
 [昨日 ジュシ-Gen Atp-買う-Prf-Nml] 本-Top これ 本 だ
 ‘昨日ジュシの買った本は、この本だ。’

3. データ

本節では、前節を基盤に、中国西南官話湘西小片における属格主語に関するデータを調査する。第一に、(14)と(15)に示されるように、西南官話は、基本的には、SVO 言語である。

- (13) ts^ho.t^hɛ̃.ko re.ts^he tɿ-rɿ pe.tɛ̃i.
 Tshothyanko letshe taw-law Pekyin.
 昨天个 列车 到-了 北京
 昨日 列車 到着する-Prf 北京
 ‘昨日列車が北京に到着した。’ (自動詞)
- (14) k^hi.nɛ̃.tɕi tsɛ̃.sɛ̃ ʃɛ-rɿ tsi pō su.
 Khinyantsen Tsansan she-law tsi pon su.
 去年阵 张三 写-了 这 本 书
 去年 張三 書く-Prf この 冊 本
 ‘去年張三がこの本を書いた。’ (他動詞)
- (15) ts^ho.t^hɛ̃.ko tsɛ̃.sɛ̃ ke-rɿ rɿsi tsi pō su.
 Tshothyanko Tsansan ke-law Lisi tsi pon su.
 昨天个 张三 给-了 李四 这 本 书
 昨日 張三 あげる-Prf 李四 これ 冊 本
 ‘昨日張三が李四にこの本をあげた。’ (他動詞 3 項動詞)

第二に、(16)で示されるように、西南官話の所有者には、属格マーカーの-ge が付加される。

- (16) tsɛ̃.sɛ̃-ge su
 Tsansan-ge su
 张三-嘅 书
 张三-Gen 本
 ‘張三の本’

第三に、(17)–(21)で示されるように、西南官話においては、属格主語が認可される。注意すべき点は、単文においては、述語に完了を示す「了」が現れる場合においても、関係節内においては、主語が属格である場合は、「了」と共起できない。これは、(18)と(21)の例で見ることができる。

- (17) [ts^ho.t^hɛ̃.ko re.ts^he tɿ-rɿ]-ge ti.h^wɛ̃ si pe.tɛ̃i.
 [Tshothyanko letshe taw-law]-ge tihuan si Pekyin.
 [昨天个 列车 到-了]-嘅 地方 是 北京
 [昨日 列車 到着する-Prf]-Nml 場所 だ 北京
 ‘昨日列車が到着した場所は、北京だ。’
- (18) [ts^ho.t^hɛ̃.ko re.ts^he-ge tɿ(*-rɿ)]-ge ti.h^wɛ̃ si pe.tɛ̃i.

- [Tshothyanko letshe-ge taw(*-law)]-ge tihuan si Pekyin.
 [昨天个 列车-嘅 到(*-了)] -嘅 地方 是 北京
 [昨日 列車-Gen 到着する(*-Prf)]-Nml 場所 だ 北京
 ‘昨日列車の到着した場所は、北京だ。’
- (19) [kʰi.n̩.t̩sɿ ts̩.s̩(-ge) ʃe]-ge su si tsi p̩.
 [khinyantsen Tsansan(-ge) she]-ge su si tsi pon.
 [去年阵 张三(-嘅) 写]-嘅 书 是 这 本
 [去年 張三(-Gen) 書く]-Nml 本 だ この 冊
 ‘去年張三が/の書いた本は、この本だ。’
- (20) [tsʰo.tʰi̯.ko ts̩.s̩ ke-rʌ ri.si]-ge su si tsi p̩.
 [Tshothyanko Tsansan ke(-law) Lisi]-ge su si tsi pon.
 [昨天个 张三 给(-了) 李四]-嘅 书 是 这 本
 [昨日 張三 あげる(-Prf) 李四]-Gen 本 だ これ 冊
 ‘昨日張三が李四にあげた本は、この本だ。’
- (21) [tsʰo.tʰi̯.ko ts̩.s̩-ge ke(*-rʌ) ri.si]-ge su si tsi p̩.
 [Tshothyanko Tsansan-ge ke(*-law) Lisi]-ge su si tsi pon.
 [昨天个 张三-嘅 给(*-了) 李四]-嘅 书 是 这 本
 [昨日 張三-Gen あげる(*-Prf) 李四]-Gen 本 だ これ 冊
 ‘昨日張三の李四にあげた本は、この本だ。’

第四に、(22)–(24)で示されるように、西南官話の単文においては、属格主語が認可されない。

- (22) * tsʰo.tʰi̯.ko re.tsʰe-ge tʌ-rʌ pe.t̩i̯.
 * Tshothyanko letshe-ge taw-law Pekyin.
 昨天个 列车-嘅 到-了 北京
 昨日 列車-Gen 到着する-Prf 北京
 ‘昨日列車の北京に到着した。’ (自動詞)
- (23) * kʰi.n̩.t̩sɿ ts̩.s̩(-ge) ʃe-rʌ tsi p̩ su.
 * Khinyantsen Tsansan-ge she-law tsi pon su.
 去年阵 张三-嘅 写-了 这 本 书
 去年 張三-Gen 書く-Prf この 冊 本
 ‘去年張三のこの本を書いた。’ (他動詞)
- (24) * tsʰo.tʰi̯.ko ts̩.s̩-ge ke-rʌ ri.si tsi p̩ su.
 * Tshothyanko Tsansan-ge ke-law Lisi tsi pon su.
 昨天个 张三-嘅 给-了 李四 这 本 书
 昨日 張三-Gen あげる-Prf 李四 これ 冊 本
 ‘昨日張三の李四にこの本をあげた。’ (他動詞 3 項動詞)

第五に、(25)で示されるように、西南官話の属格主語には、多動性制限 (Watanabe (1996)) がかかる。注意すべき点は、文が複雑になると、SOVになる傾向があり、(25)においては、関係節内部の語順がSOVとなっている。

- (25) ri.si ɛʌ.te(-ko) [kʰi.n̩.t̩sɿ ts̩.s̩-go/*-ge ne p̩ su mɛ-rʌ]-ge ri.zə.
 Lisi hyawte(-ko) [khinyantsen Tsansan-go/*-ge nay pon su may-law-ge liyew.
 李四 晓得(-咽) [去年阵 张三-go/*-嘅 那 本 书 买-了]-嘅 理由
 李四 知る(-て) [昨年 張三-Nom/*-Gen あの 冊 本 買う-Prf]-Nml 理由
 ‘李四は、[昨年張三が/*のあの本を買った]理由を知っている。’

第六に、(26)と(27)で示されるように、西南官話においては、長距離属格主語は、認可されない。(26)は、埋め込み文を持ち、(27)は、その埋め込み文が関係節内部に入れられている例である。ともに、属格主語が出現することができない。

- (26) ri.si ko.te(-ko) [ts̩.s̩(*-ge) mɛ-rʌ tsi p̩ su].
 Lisi kote(-ko) [Tsansan (*-ge) may-law tsi pon su].
 李四 觉得(-咽) [张三 (*-嘅) 买-了 这 本 书]
 李四 思う(-て) [張三(*-Gen) 買う-Prf この 冊 本]

‘李四は、[張三が/*のこの本を買ったと]思っている。’

- (27) [ri.si ko.te [tsẽ.sẽ(*-ge) mɛ]-ge su si tsi põ.
 [Lisi kote [Tsansan(*-ge) may]-ge su si tsi pon.
 [李四 觉得 [张三(*-嘅) 买]-嘅 书 是 这 本
 [李四 思う [張三(*-Gen) 買う]-Nml 本 だ この 冊
 ‘[李四が、[張三が/*の買ったと]思っている]本は、この本だ。’

ただし、(27)と表層上まったく同じ語順であるが、関係節が埋め込み文を含まず、単文である場合は、(28)に示すように、属格主語が可能になる。

- (28) ri.si ko.te(-ko) [[tsẽ.sẽ(*-ge) mɛ]-ge su si tsi põ].
 Lisi kote(-ko) [[Tsansan(-ge) may]-ge su si tsi pon].
 李四 觉得-嘸 [[张三(-嘅) 买]-嘅 书 是 这 本]
 李四 思う-て [[張三(-Gen) 買う]-Nml 本 だ この 冊
 ‘李四は、[[張三が/の買った]本は、この本だと]思っている。’

第七に、日本語においては、(29)で示されるように、「まで」節において属格主語が可能であるが、西南官話においては、(30)で示されるように、属格主語が出現することができない。

- (29) 花子は、[太郎が/の来るまで]、家の中で待っていた。
 (30) ri.si te vu.də tĩ [rõ tsẽ.sẽ(*-ge) rɛ].
 Lisi tay vudew ten [lon Tsansan(*-ge) lay].
 李四 在 屋头 等 [拢 张三(*-嘅) 来]
 李四 居る 家の中 待つ [まで 張三(*-Gen) 来る]
 ‘李四は、[張三の来るまで]、家の中で待っていた。’

同様に、日本語においては、時間を示す「前に・後で」節において属格主語が可能であるが、西南官話においては、属格主語が出現することができない。

- (31) 昨日太郎が/の笑った後で、みんなも笑った。
 (32) [tsʰo.tʰẽ.ko tsẽ.sẽ(*-ge) ʃʌ-ra-ko], ta.ka-ze ʃʌ-rʌ.
 [Tshothyanko Tsansan(*-ge) shaw-la-ko], taka-ye shaw-law.
 [昨天个 张三(*-嘅) 笑-了-嘸] 大家-也 笑-了
 [昨日 張三(*-Gen) 笑う-Prf-て] 皆-も 笑う-Prf
 ‘昨日張三が/*の笑った後で、みんなも笑った。’
 (33) 昨日太郎が/の笑う前に、花子が笑った。
 (34) [tsʰo.tʰẽ.ko tsẽ.sẽ(*-ge) ʃa mi ʃʌ], ri.si tɔ ʃʌ-rʌ.
 [Tshothyanko Tsansan(*-ge) gha mey shaw], Lisi tew shaw-law.
 [昨天个 张三(*-嘅) 还 未 笑] 李四 就 笑-了
 [昨日 張三(*-Gen) まだ NEG 笑う] 李四 もう 笑う-Prf
 ‘昨日張三が/*の笑う前に、李四が笑った。’

一方、条件節では、日本語と同様、属格主語が出現できない。

- (35) 太郎が/*の笑ったら、みんなが驚くだろう。
 (36) [tsẽ.sẽ(*-ge) ʃʌ-ra-ri.va], ta.ka tɔ zʌ hɛ-tʌ o.
 [Tsansan(*-ge) shaw-la-liva], taka tew yaw he-taw o.
 [张三(*-嘅) 笑-了-嚟话] 大家 都 要 吓-着 哦
 [張三(*-Gen) 笑う-Prf-なら] 皆 全て だろう 驚く-もらう な
 ‘張三が/*の笑ったら、みんなが驚くだろう。’

4. 議論

本調査の結果、西南官話の湘西小片において、属格主語が認可されることが明らかになった。さらに、属格主語の分布が、日本語のそれとかなりの程度類似していることも分かった。つまり、両言語において、(i) 短距離属格主語認可が可能であり、(ii) 長距離属格主語認可が不可能であり、(iii) 属格主語が目的語と共起することが不可能である。一方、(iv) 「まで節」のような付加節においては、日本語では属格主語が出現できるが、西南官話ではできない。(iv)の理由は、西南官話においては、「まで」に当たる語「拢 =lon」が、節

の先頭に現れ、名詞性がなく、文を取る補文化標識として機能しているからである。同様に、西南官話では、「...前、...後、...ら」等の表現は、全て名詞を使用して表現されないため、その節内部においては、属格主語が認可されない。これは、(7a)に抵触するからである。

また、(v) 西南官話と中国語普通話における属格主語の出現可能性に差がある。具体的には、中国語普通話においては、属格主語出現の可能性は、話者間に差異があるが (Maki et al. (2015))、西南官話では、属格主語は、基本的に許容される。(37)の例は、現代中国語普通話の例で、(37b)の文法性は、話者によって異なる。

- (37) a. Zuotian huoche dao Beijingzhan de shijian shi 3 dian.
yesterday train arrive Beijing Station DE time is 3 o'clock
'The time when the train arrived at Beijing Station yesterday is 3 o'clock.'
- a. Zuotian huoche de dao Beijingzhan de shijian shi 3 dian.
yesterday train DE arrive Beijing Station DE time is 3 o'clock
'The time when the train arrived at Beijing Station yesterday is 3 o'clock.'
- (Maki, Fan and Wang (2015, p. 63))

このことから、西南官話は、中国語の方言であるにもかかわらず、かなりの程度、日本語と共通の性質を持っていることがわかる。

さらに調査を進めると、(vi) 日本語における(38)に見られる同格表現が、西南官話においても、(39)に示されるように認可され、さらなる日本語との平行性を示している。

- (38) イワンの馬鹿 (39) zi.vě-ge mǐ.tsi pē po.ci ta.sul-lǎ.
Yivan-ge mantsi pan poli tasuy-law.
伊万-嘅 莽子 帮 玻璃 打碎-了。
イワン-の 馬鹿 を ガラス 割る-Prf
'イワンの馬鹿が、ガラスを割った。'

ここで、「を」は、前置詞で、「ガラス」を目的語として取っている。

日本語と西南官話以外の言語において、「イワンの馬鹿」という表現が可能かどうか、あるいは、どのように表現されるかを調査した結果、日本語と西南官話に見られるような同格の「の」は、ビジ語に観察されることが分かった。

- (40) zi.βě-ge muxnō
Živan-ge muknōñ
イワン-Gen バカ
'イワンの馬鹿' (ビジ語)

しかしながら、他の言語においては、同格の「の」の用法を許容する言語は発見できなかった。以下に、いくつかの言語の例を示す。英語には「の」にあたる格助詞がない。「イワンの馬鹿」に相当する表現は、(41)である。

- (41) Ivan the fool
イワン その 馬鹿
'イワン、その馬鹿' (英語)

ロシア語の「イワンの馬鹿」に相当する表現は、(42)である。英語と異なり、「イワン」と「馬鹿」の間に冠詞はないが、語の並ぶ順は英語と同じである。

- (42) Ivan-durak
Иван-дурак
イワン-馬鹿
'イワン-馬鹿' (ロシア語)

韓国語で、「イワンの馬鹿」は(43)のように言う。しかしながら、(44)が示すように、「イワンの馬鹿」という表現はできない。

- (43) babo Iban (44) * Iban in babo

마보 이반	* 이반 인 마보
馬鹿 イワン	イワンの 馬鹿
‘馬鹿イワン’ (韓国語)	‘イワンの馬鹿’

モンゴル語では、「イワンの馬鹿」という言い方はできないが、(45)のような言い方が可能である。この時、「馬鹿」は fool という名詞ではなく、foolish という述語になっているため、前述した同格の「の」とは異なる。ここで、「ee」は感嘆表現である。

(45) Iwan-u teneg ee!
 イワン-の 馬鹿 なあ!
 ‘イワンは馬鹿だなあ!’ (モンゴル語)

中国語では、邱曉石氏によれば、現代日本語のような同格の表現ができない。罵る言葉で、「イワンの馬鹿」に近い表現は(46)と(47)である。

(46) Yiwan ni ge bendan!	(47) Yiwan ni zhè bendan!
伊万 你 个 笨蛋!	伊万 你 这 笨蛋!
イワン 君 類別詞 馬鹿	イワン 君 この 馬鹿
‘イワン、君は、馬鹿!’ (中国語)	‘イワン、君は、馬鹿!’

したがって、属格を使用した同格表現は、西南官話湘西小片、ビジ語、日本語では可能であるが、モンゴル語、中国語普通話、韓国語、英語、ロシア語等では不可能である。

5. 結論

調査の結果、西南官話の湘西小片における属格主語の分布が、日本語のそれとかなりの程度類似していることが明らかになった。具体的には、(i) 短距離属格主語認可が可能であり、(ii) 長距離属格主語認可が不可能であり、(iii) 属格主語が目的語と共起することが不可能である。一方、(iv) 「まで節」のような付加節においては、日本語では属格主語が出現できるが、西南官話ではできない。また、(v) 西南官話は、現代中国語普通話と比較すると、その属格主語の出現状況はるかに日本語における属格主語の出現状況と類似している。さらに、(vi) 中国西南官話湘西小片の属格の分布を調査すると、日本語における「イワンの馬鹿」に見られる同格表現が可能であることが明らかになった。この同格表現は、この言語と日本語・ビジ語以外に可能ではない。この事実と、中国西南官話湘西小片と日本語において属格主語が出現するという事実は、西南官話湘西小片・ビジ語と日本語の母語話者間に生物学的類似性があるかどうかという問いを提起する。

参考文献

- Harada, Naomi (2002) *Licensing PF-Visible Formal Features: A Linear Algorithm and Case-Related Phenomena in PF*, Doctoral dissertation, University of California, Irvine.
- Harada, S.-I. (1971) “Ga-No Conversion and Idiolectal Variations in Japanese,” *Gengo Kenkyu* 60, 25–38.
- Hiraiwa, Ken (2001) “On Nominative-Genitive Conversion,” *MIT Working Papers in Linguistics 39: A Few from Building E39*, ed. by Elena Guerzoni and Ora Matushansky, 66–125, Cambridge, MA.
- Kobayashi, Yukino (2013) *Japanese Case Alternations within Phase Theory*, Doctoral dissertation, Sophia University.
- Maki, Hideki, Lina Bao, Wurigumula Bao and Megumi Hasebe (2016) “Scrambling and Genitive Subjects in Mongolian,” *English Linguistics* 33, 1–35.
- Maki, Hideki, Lina Bao and Megumi Hasebe (2015) *Essays on Mongolian Syntax*, Kaitakusha, Tokyo.
- Maki, Hideki, Ling-Yun Fan and Can Wang (2015) “Does Modern Chinese Allow Genitive Subjects?” *English Linguistics* 32, 59–77.
- Miyagawa, Shigeru (1993) “Case-Checking and Minimal Link Condition,” *MIT Working Papers in Linguistics 19: Papers on Case and Agreement II*, ed. by Colin Phillips, 213–254, Cambridge, MA.
- Miyagawa, Shigeru (2011) “Genitive Subjects in Altaic and Specification of Phase,” *Lingua* 121, 1265–1282.
- Miyagawa, Shigeru (2012) *Case, Argument Structure, and Word Order*, Routledge, New York.
- Miyagawa, Shigeru (2013) “Strong Uniformity and Ga/No Conversion,” *English Linguistics* 30, 1–24.
- Ochi, Masao (2001) “Move F and Ga/No Conversion in Japanese,” *Journal of East Asian Linguistics* 10, 247–286.
- Ochi, Masao (2009) “Overt Object Shift in Japanese,” *Syntax* 12, 324–362.
- Watanabe, Akira (1996) “Nominative-Genitive Conversion and Agreement in Japanese: A Cross-linguistic Perspective,” *Journal of East Asian Linguistics* 5, 373–410.

* 本稿のすべての不備は執筆者自身のものである。本稿におけるデータの提供に対して、以下の方々に感謝する。小西豊氏 (ロシア語)、전용훈 (Jeon Yonghun) 氏 (韓国語)、邱曉石氏 (中国語)、Lina Bao 氏 (モンゴル語)、Richard Albert 氏 (英語)。

連絡先メール住所: Hideki Maki <maki.hideki.d5@f.gifu-u.ac.jp>